

音声データを光に変換

光糸電話 加古川越え

加古川市の電子系ものづくり集団「エレサイくらぶ」が、音声データを光に変換して送信する「光糸電話」で加古川越えに成功した。「メリット5（感度良好）」。左岸に設置した自作の送信機から細い緑色の光線が伸び、約1.5先で受信した右岸のスピーカーから明瞭な音声が聞き取れた。（井上 駿）

同くらぶは、電子工 オード（LED）を用いて取り組み、ものついで、遠方まで音声を届くことの楽しさを再発見 ける実験に挑む。

しよと、代表の塚原 自作の機器の愛称は「英成さんが2006年」に設立。塚原さん経営 カメラのレンズなどを再利用し、製作費は1で、愛好家が集い、真 万円を割り込む。送信空管アンプやラジオな 機のみから音声を取得を製作している。

今年3月から、塚原 強弱に変換。わずからさん、織田進さん、江 大のLEDが発する村直樹さん、奈良雅美 光を受信機が捉え、再さんの4人は発光ダイ び音声データに変換

ものづくり集団「夢は明石海峡越え」

自作のLED光空間通信の送信機を持つ織田進さん（左）と受信機を操作する塚原英成さん（加古川市加古川町西河原）



し、スピーカーから流れた技術だが、自分の力をで作り上げた機器で通信できた時の感動はたまらない」と話 エレサイくらぶ0受信機まで届ける作業 す。次の目標は平荘湖 79・422・8739

が「苦労という。加古川越えは先月29日に達成。塚原さんは「今となつてはありふらませる。織田さんは「海峽越えにはロマンが詰まっている」と目を輝かせる。

岡山公園間（約2.5km）で、明石海峡越え（約4km）への夢を膨らませる。